

2025年8月4日

## 【SUPER GT 第4戦 /富士スピードウェイ レポート】

### SUPER GT 史上初、公式戦で3つのスプリントレースを開催。 ヨコハマユーザーがオーバーテイクショーで見ごたえあるバトルを展開

SUPER GT 第4戦富士大会が8月2日(土)、3日(日)に開催された。SUPER GT 公式戦初めてのスプリントレースとなった今大会でのヨコハマタイヤ勢の戦いについて振り返る。

#### 【レース1】(両クラス混走、35周)

まずは、8月2日のレース1。GT500クラスのWedsSport ADVAN GR Supraは阪口晴南選手が、リアライズコーポレーション ADVAN Zは松田次生選手が出走する。予選では阪口選手が、前戦マレーシア大会を思い出させるような圧巻のスピードを披露。僅差ながら「富士マイスター」と呼ばれているライバルを下しての一番時計で、2戦連続でポールポジションを獲得した。松田選手は阪口選手に対し0.5秒差の6番手。



決勝レースのスタート進行が始まるころには気温は36度、路面温度は57度を記録した。まさに灼熱の戦いとなったレース1は、スタートして早々にGT500クラス車両の1台が接触アクシデントからコースサイドでストップ。これによりセーフティカー(SC)が導入され、レースは5周を終えたところでリスタートが切られた。このSC明けに、阪口選手のWedsSport ADVAN GR Supraは後続に迫られ2ポジションを下げてしまうが、それでも離されずに食らいついていく。天候は決勝スタート時から徐々に悪化し、折り返し地点の18周目を迎えるころには雨もぱらつくように。ウェットタイヤに換えるほどではないものの、路面コンディションはタイヤに不利な方向に大きく変わってしまい、阪口選手は最終的に5番手でチェッカーを受け、上位の1台がタイム加算のペナルティを受けたことで正式結果は1つポジションアップの4位となった。松田選手のリアライズコーポレーション ADVAN Zは12位完走だった。





決勝レースは、グッドスマイル初音ミク AMG がペースに苦しみじわじわとポジションを下げていく一方、マツハ車検 エアバスター MC86 マツハ号の木村伊織選手が躍動。序盤に落としたポジションもすぐに回復すると、50分レースの終盤には、コカ・コーラコーナーで4番手に浮上した。予選位置から2ポジション上げた形でチェッカーフラッグ。木村選手の追い上げはサーキットでもテレビ中継でも大いに注目され、トップ3表彰台は逃したものの、ファンの投票で決定する特別賞に選ばれ、壇上で表彰が行われた。



GT500クラスは、WedsSport ADVAN GR Supra は国本雄資選手が4位から、リアライズコーポレーション ADVAN Z は名取鉄平選手が8位から決勝をスタートした。名取選手は、レース1の松田選手からのフィードバックもありペース良く周回。4周目に相手のミスをおさえずスーパーコーナーでパスすると、今度は国本選手とのバトルに。激しい戦いは4周にもわたったが、最終コーナーでインサイドから並びかけて逆転。これでポジションアップに成功した。その後も1台、また1台とかわしていき6番手まで浮上。終盤には後方のマシンに迫られるような場面もあったが、そこもきっちりとおさえ切り6番手でチェッカー。レース後、5秒のタイム加算ペナルティを受け正式結果は10位となった。国本選手は序盤の接近戦で接触されるアクシデントがありながら常に複数台とのバトルを展開したが、徐々にペースダウン。その後タイヤ交換のためピットインしコースへ復帰するも大きなタイムロスとなり、最終的に15位でフィニッシュした。

#### ■名取鉄平選手(リアライズコーポレーション ADVAN Z)

【今回の成績：GT500クラス 10位】

ウォームアップの面では少し厳しいところがあったが、最初にポジションを落としましたが、その後のペースはとても良かったです。レース中のベストタイムも全体の4番手で、いいパフォーマンスを出せたと思います。今回は全車ノーウェイトの戦いだったので、その中でこういうレースを戦えたことは大きな意味を持っていると思います。次戦以降にもチャンスがあるのかなと思えるようなレースができて良かったです。

#### ■木村偉織選手(マツハ車検 エアバスター MC86 マツハ号)

【今回の成績：GT300クラス 4位】

レース1を戦った塩津佑介選手が、とてもいいバトンを渡してくれて、今日は走り始めから非常にクルマの状態が良かったです。そこから少しブラッシュアップして、自分の走りを合わせていくという、いい流れが練習走行の時点からできていました。予選は自分が失敗してしまって6位だったので、とにかく決勝では巻き返したいと思っていて、スタートでは元気が良すぎて飛び出してしまうつもりでしたが、最後までタイヤのグリップが落ちず、高いパフォーマンスで走り続けられたことでいいレースができました。今回のレースを通してチームの士気も上がったので、次戦も頑張ります。

■中崎敬介 [横浜ゴム タイヤ製品開発本部 MST 開発部 技術開発 1 グループ・リーダー]

新しいフォーマットのレースで、クラス別走行や予選決勝の時間帯の差などを経験し、様々な面での発見と課題の多いレースだったと感じています。

GT500 については、レース 1 途中での雨による環境の変化やレース 2 の予選決勝の時間帯差による路気温の変化に対応できる性能のレンジが、まだまだ充分ではないことを認識し今後の課題だと思っています。

GT300 については様々なチームがありタイヤ選択もいろいろと分かれていましたが、比較的ソフトなタイヤを選択した 5 号車の追い上げの様子は、これも今後のデータとして活かしたいと思います。

・横浜ゴム モータースポーツ Facebook:<https://www.facebook.com/YRCmotorsports>

・横浜ゴム モータースポーツ X:[https://x.com/Yokohama\\_sport](https://x.com/Yokohama_sport)

・横浜ゴム モータースポーツ Instagram:[https://www.instagram.com/yokohama\\_motorsports/](https://www.instagram.com/yokohama_motorsports/)

※本リリース、ならびに上記 SNS に掲載している画像は、ご転載いただけます。

このリリースに関するお問い合わせ先

横浜ゴム（株）タイヤ消費財商品企画部マーケティンググループ

担当：伊藤

TEL：070-8828-9830 FAX：0463-63-0561